

令和 5年度 園評価書

園番号 55

園名

葵待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A :よくできている B :概ねできている、C :あまりできていない、D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
こころもからだも元気な子	安心して思いを出しながらあそぶ	温かく応答的な関わりの中で、安心して自分の思いや欲求を表現している	一人一人と丁寧にに関わり、子どもの気持ちや思いを受けとめ、否定的なことで対応しないように意識している。また援助しすぎないように子どものやろうとする気持ちを大事にしている	B	A	先生方がとても親切で子どもへの関わり方もとても安心してできています	子どもの発達を考慮し見守りと援助のバランスを持ち保育していく
		自分から「やってみよう」、「やってみよう」と興味を持ち好きな遊びを楽しんでいる	子ども達の興味関心のある事に目を向け環境作りをする事で、子どもが自ら「やってみよう」、「やってみよう」という気持ちが育ってきている	A	A		子どもが興味、関心を持てるあそびの環境作りをしていく
		遊びの中で伸び伸びと体を動かし、自然物に触れたり、色々なことに興味を持ち遊びを楽しんでいる	室内、室外での遊びの工夫が多く見られるようになり、遊びの空間の使い方や物の組み立て等ができるようになってきた。また散歩で拾った自然物を利用して遊びの中に取り入れ遊んでいる	B	A		空間の使い方の工夫や遊びの広がりを考える

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標					
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	子どもの発達に合わせて見守る場面、援助する部分を大事にし、保育教諭間で共有し保育を進めている。又乳児は個人差も大きく、0歳児は視線が低いので子どもの視線にたって保育するよう心がけている	B	A	みなさんいつも優しく丁寧に関わって頂きありがとうございます！感謝しております	月ごと子どもの入れかわりがある為、職員会議で子どもの情報を共有し、月齢や発達に合った環境設定をする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児一人一人の生活リズムや家庭状況に応じて、園生活や遊びの流れを作っている	1日安心して過ごせるよう子どもと保育教諭の関わりを大切にし、個々の様子を共有し過ごせるようにしている	B	A		子どもの情報共有をこまめに行い、気付いた事などを声に出し共有していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	遊びの中で試したり気づいたりする楽しさが感じられるような環境構成がされている	環境設定がマンネリ化しないように子ども達の遊びを広げる工夫、環境設定をしている。その中で子どもが自ら工夫し、試し楽しんで遊べるような環境の再構成をしている	A	A		すぐ質問に対して嫌な顔せず応えて下さって安心してます
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	事故や災害、不審者対応について安全な対策がとられている	職員配置が変わる事が多いので、災害時の役割を毎月確認している。避難訓練、不審者訓練で出た反省、課題を翌月につなげ保育教諭間で周知している	A	A	もしも可能なら、おやつを市販のスナック菓子でなく変えることはできないだろうか？近くのお豆腐屋さんが作った豆腐ドーナツとかの方がサッポロボトよりも〇〇〇良いかと、可能なら	ヒヤリハット・避難訓練・不審者訓練で出た反省、課題を検討し保育教諭間で再確認していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差に配慮しながら健康に過ごすために発達に応じて必要な生活習慣が身につくようにしている	一斉に行うのではなく一人一人の状況、様子に合わせ生活習慣が身につくようにしている。「自分で」という意欲につながりにくいが、丁寧にに関わり繰り返し伝えている	B	A		「自分でやってみよう」とする意欲を引き出すような声かけや援助をしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、保護者・関係機関と連携を取りながら支援をしている	個々の特性を見ながらその個にあった支援の仕方を考え、保育教諭全員が共通理解して取り組んでいる。支援に必要な子については、面談をして保護者の悩みを聞いたり、子どもの様子を共有している	A	A		保護者とコミュニケーションを取り一人一人の様子や変化に気づき、発達や特性の理解をして、援助につなげるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、協力的体制のもと保育が進められている	それぞれ自分の役割を理解し仕事を進めているが、計画性を持って早目に取り組めるようにしていく。クラス内の職員で回されるような協力体制を作っていく	B	A		園全体を把握し、協力的体制で仕事が円滑に進むようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修のテーマを共通理解し教材研究をする中で、保育実践が行われている	園内研修をする事で自分の保育の振り返りや園全体の課題を見つけ、保育実践につなげている。教材研究にもう少し時間を取り、みんなでじっくり取り組めるよう進めていく	B	A		教材研究の学びを重ねて保育実践につなげ子どもに提供していく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	こどもが興味・関心を持って主体的に遊べる環境構成が行われている	「～したい」と言う子どもの声を見逃さず、環境設定する事で保育者も一緒にあそびを楽しむ中で子ども達から「次は～したい」という思いが出るようになった	A	A		保育教諭も一緒に遊びを楽しみながら、子どもの声を拾って遊びが広がるように関わったり、環境作りを行っていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	こどもの育ちを保護者と共有しながら、ドキュメンテーション・絵本・食育等の情報発信をしている	園での子どもの様子や日常の中であった事をドキュメンテーションで掲示する事で保護者にわかりやすく伝えられた。また親子でのコミュニケーションがとれるきっかけになっている	A	A		園からの発信だけでなく保護者からの情報も共有していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	待機児童園の連携と、連携園の園児(2歳児交流)・職員同士の交流が図られるようになっている	連携園との交流ができ、2歳児の子どもがよい刺激になった為、連携園と一緒に計画・企画をたて継続していくようにする	A	A		連携園、待機同士それぞれの交流の場を計画を立てて進めていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	積極的に地域と関わる機会を持つ事で、地域の園として知ってもらったり、親しまれる園になっている	季節、行事に合わせて積極的に地域と関わる機会を持つ事で、園を知ってもらえる機会が増え定着している	A	A		地域との交流が定着してきているので、少しずつ他の所にも目を向け広げていく